


2 プログラムの実行

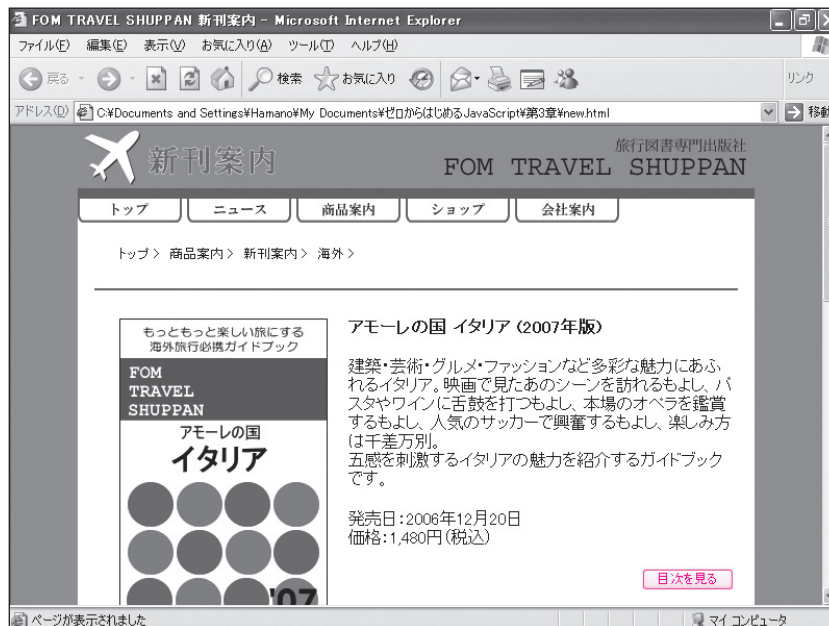
HTMLファイルを更新し、プログラムの実行結果を確認しましょう。

① Internet Explorerに切り替えます。

②  (更新) をクリックします。

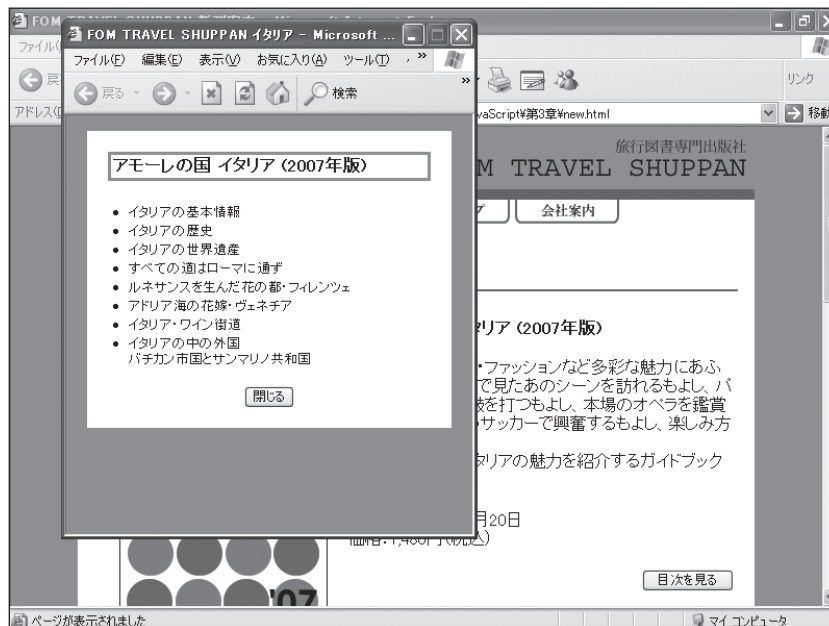
※情報バーが表示されたら、JavaScriptの実行を許可しましょう。

③ イタリアの「目次を見る」ボタンをクリックします。



④ 指定したサイズと位置にウィンドウが開かれることを確認します。

※情報バーが表示されたら、JavaScriptの実行を許可しましょう。



※開かれたウィンドウを閉じておきましょう。

3 プログラムの確認

記述したプログラムの内容を確認しましょう。

①

```
italywin=window.open("italy.html","win","menubar=1 toolbar=1");
```

関数italyhiraku()に処理を追加しています。

変数italywinを宣言し、「window.open("italy.html","win","menubar=1 toolbar=1")」を代入しています。ウィンドウのサイズや位置を指定するときは、変数を宣言し、windowオブジェクトを代入します。

②

```
italywin.resizeTo(400,500);
```

変数italywinの幅を400ピクセル、高さを500ピクセルに設定する、という意味です。

変数italywinには「window.open("italy.html","win","menubar=1 toolbar=1")」が代入されているので、「italy.html」を読み込むwindowオブジェクトの幅と高さが設定されます。

How to Write

特定のサイズでウィンドウを開く

```
変数名=window.open(ファイルのURL)  
変数名.resizeTo(幅,高さ)
```

ウィンドウの幅と高さをピクセルで設定します。設定した幅と高さでウィンドウが開かれます。

③

```
italywin.moveTo(50,10);
```

変数italywinの開始位置をX座標50ピクセル、Y座標10ピクセルに設定する、という意味です。

変数italywinには「window.open("italy.html","win","menubar=1 toolbar=1")」が代入されているので、「italy.html」を読み込むwindowオブジェクトのX座標とY座標が設定されます。

How to Write

特定の位置にウィンドウを開く

```
変数名=window.open(ファイルのURL)  
変数名.moveTo(X座標,Y座標)
```

ウィンドウの開始位置のX座標とY座標をピクセルで設定します。設定した位置にウィンドウが開かれます。

1

2

3

4

5

6

7

索引